

# コレステロール



## 脂質異常症の基準値の中にある「ノンHDLコレステロール」というのは、何を表しているものですか。



血液中の脂肪には中性脂肪とコレステロールがあり

ますが、前者は燃焼し体を動かすエネルギーなどに、後者は血管の壁、細胞の膜、ホルモンや胆汁などを作る重要なものです。これが異常な場合を脂質異常症と呼びますが、問題なのは動脈の壁を固く厚くし、脳梗塞などの原因の動脈硬化を起こすからです。その基準は、中性脂肪の値とコレステロールの値が2種類（「LDLコレステロール」という過剰で動脈硬化を起こす悪玉と「HDLコレステロール」という反対に動脈硬化を改善する善玉）の二つありますが、最近では新たな基準値が加



わりました。それが

「ノンHDLコレステ

ロール」です。コレステロールには、「LDL」以外にも動脈硬化を起こす作用が数種類知られており、正確にコレステロールのバランスを見るために、総コレステロールから引いた「HDL」の値を、「HDL」でな

いという意味で「ノンHDLコレステロール」と呼んで第4の基準値にしています。これが高い場合は、動脈硬化のリスクにもなりますが、低い場合にも栄養障害、肝硬変などが疑われます。脂質異常症はノンでいきましょー！

朝倉病院  
理事長／院長  
田辺 裕久さん